



REPORT

「いえラボ」と「家でのこと」 ケアと物語を紡いでいく コラボレーション！

このたび本誌巻頭連載「家でのこと」の原画を、東邦大学地域連携教育支援センターが運営する「暮らしの保健室 いえラボ」に展示してもらえることがになりました。さまざまな人が行き交う空間に置かれることで、ケアする人、ケアされる人がそれぞれの物語を語り合い、共感を深めることに貢献できればと期待しています。語り合いの様子は今後、本誌でも紹介していく予定です。

なお、現在、「いえラボ」では、新型コロナウイルス感染拡大を受け、来訪者の制限を行っています。訪ねたい方は事前に下記へご連絡ください。

（『訪問看護と介護』編集室）

東邦大学「いえラボ」は、2014～2018年度に取り組んだ文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業「都市部の超高齢社会に挑む看護師養成」プログラムから生まれた学びの家です。「坂東邦恵さん」という仮想住人の暮らしを想像し、支援を創造する試みを、地域の方々に見守られながら学生や医療福祉職の方々が体験してきました。現在は「暮らしの保健室 いえラボ」も開設し、地域の方々との交流の場にもなっています。

そんな「いえラボ」で高橋恵子さんの原画を展示するチャンスをいただきました。暮らしの空間で、ケアを受ける人・する人の物語を想像する新たな試みが始まります。



横井郁子
東邦大学
地域連携教育
支援センター

東邦大学地域連携教育支援センター

TEL 03-3762-9264 FAX 03-3766-3914
E-MAIL tohoielab@jim.toho-u.ac.jp